

事業所名 グループホーム長寿の郷邑久
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月24日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 介護支援専門員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士
B: 現職 介護保険施設勤務
資格・経験 社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・「竹久夢二の生家」や「西大寺観音院」に程近い、吉井川下流沿いの田園地帯にホームはある。ホームの前には、気球(バルーン)やパラグライダー、プロペラ機が飛着ける広場等もあり、自然豊かな環境の中で入居者は暮らしている。
- ・玄関に向かう通路には、季節の鉢植えや陶器の人形が置かれており、心を和ませてくれる。玄関を入ると、「おじいさんの古時計」の曲を思わせるような柱時計があり、時の流れの重みを改めて思い出させてくれる。ホームの東側には広い菜園があり、ホームの窓からは四季折々の作物の成長を見ることが出来る。
- ・施設長は、介護はハード面とソフト面のバランスが大切だと考えており、建物の隅々まで入居者への配慮が行き届いている。朝日を浴びて一日を始めるため居室は全室東向きになっており、下肢筋力の維持を目指して廊下を長くし、入居者の身体状況に合わせて利用できるよう両面開閉のエレベーターを設置する等々、どれをとっても、住む人を中心に考えた設計となっている。
- ・施設長は、国際貢献ボランティアにも取り組んでおり、人に対する深い愛情と企業で培った経験を生かし、入居者・家族が共に安心して任せられるケアの提供に取り組んでいる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・非常災害時マニュアルに沿った研修や、消火器の使用訓練を毎年行っている。現在のところ、防災訓練は実施できていないが、近隣のゴルフ場や町内会との協力体制も出来ており、3月末までには訓練を実施し、改めて消防訓練計画に沿った体制を作っていく予定である。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者を人生の大先輩として敬意を払い、入居者が「何を求め、何がしたいのか」を常に考え、入居者の気持ちに添った支援に努めている。 ・入居者とのコミュニケーションは、わかりやすい言葉でゆっくりとやさしく話し、繰り返し話されることも、その都度きちんと受け止め、感動する気持ちで聞くように心がけている。 ・入居者・家族とは、親・子・孫として関わり、身内として真心を尽くし、共に喜怒哀楽を分かち合う関係作りを励んでいる。 ・常に、「目くばり・気くばり・心くばり」を怠らず、入居者の思いを汲み取り、楽しい時間を過ごしてもらえようように精一杯努力している。 ・ホームは病院ではなく家庭であり、入居者一人ひとりに合わせた個別のケアを提供し、出来ないところを援助し、入居者が安心できる居場所を作ること大切に考えている。 ・職員は、「心を磨く・腕を磨く・体を磨く・建物のように起き上がり」との今年の目標のもと、規律を遵守し、入居者に心を傾けて日々の業務に取り組んでいる。 ・職員は勤務時間外であっても、「長寿の郷邑久」の職員としての自覚を持ち、地域に信頼されるホームとしての責任を果たしていきたいと考えている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者のペースを大切にしながら、入居者と変わらぬ暮らしを日々繰り返すことで生活のリズムを整えている。また、食材を刻む音や調理の香り、会話等により五感を刺激し、落ち着いて過ごせる環境作りを行っている。 ・入居者の得意なこと、出来ることを把握し、「塗り絵・俳句・土いじり等」の趣味を生かす機会を作り、自尊心を高め、能力の維持・向上を図るよう取り組んでいる。 ・職員は、毎週日曜日に行う「カラオケ大会」等、入居者と一緒に過ごす時間を大切に、人と人の和を大切に生活の場作りに取り組んでいる。 ・居室の内側からは鍵を掛けることが出来るようになっており、入居者が安心して独りで過ごす時間を大切にしている。各居室の外側には、郵便投入口の形態の安否確認窓が設けられている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる動きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの過去の経験や現在の能力を把握し、出来ることには手を出さず、待つ介護を心がけている。主体は入居者であり、職員の都合で行動しないことを心がけている。 ・居室は自宅であり、入居者が独りで居室で過ごす時間を大切に、中の様子は壁に取り付けたポスト投入口からそっと確認している。 ・家族が訪問された際、個人に関わることについては入居者の居室で話をできるようにしている。面会簿は、職員が居室に持って行き、入居者ごとに記入してもらっている。また、ファイル類は事務室内のロッカーに保管し、情報の保護に努めている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策		○
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故が起こった時は、すぐにホーム内会議で検討を行うと共に報告書を作成し、全職員で情報を共有している。常に危機感を持ち、誠意を持って対応し、事故の再発防止に向けて真摯に取り組む体制が出来ている。事故は起きてからではなく、未然に防ぐよう努力している。 ・介護日誌に衛生チェックの項目を設けており、感染を防ぎ、また、職員が感染源にならないように研修を行っている。予防接種は、毎年ホームの負担で行っている。 ・施設長は、ホーム全体の質の向上を目指し、職員との面接や、何かあればいつでも相談を受けようとしている。また、役割業務基準を規定し、業務環境の整備と業務の意識付けを行っている。 ・ホーム設立から3年が経過した現在、基本方針の再確認を行い、今後の成長に向けて気持ちを引き締め、新たな出発として日々努力している。 		